

愛南町防災休憩施設基本構想




いろこい あいなん

ainan

愛南町ブランディング ログマーク/キャッチコピー 令和3年3月作成

令和3年3月

 愛南町

目次

第1章 基本構想の策定にあたって	1
1.1 基本構想の背景・策定目的	1
1.2 基本構想の位置付け	1
1.3 基本構想の策定方法	1
第2章 愛南町防災休憩施設の役割	2
2.1 整備の必要性	2
2.1.1 「防災機能をもつ施設」の必要性	2
2.1.2 「地域交流機能をもつ施設」の必要性	4
2.2 愛南町防災休憩施設に求められる役割	5
2.2.1 大規模災害発生時の役割	5
2.2.2 平常時の役割	5
2.3 整備候補地選定の配慮事項	6
2.4 愛南町防災休憩施設の整備候補地	7
第3章 愛南町防災休憩施設の具体的な整備方針	9
3.1 施設の具体的な機能	9
3.1.1 緊急避難場所（津波一時避難場所）としての機能	9
3.1.2 ヘリポートとしての機能	10
3.1.3 進出拠点・活動拠点としての機能	10
3.2 必要な施設整備内容	11
3.2.1 多機能型休憩施設	11
3.2.2 駐車場	11
3.2.3 ヘリポート	12
3.2.4 広場	12
3.2.5 その他（トイレ・連絡路等）	12
3.3 整備方針	13
（参考資料）御荘地区休憩施設イメージパース	14
第4章 今後の取り組み	15
4.1 整備の進め方	15
4.2 整備における課題	15
4.2.1 災害時・平常時機能に関する詳細な施設内容	15
4.2.2 南レク松軒山公園の防災拠点としての機能強化	15
4.2.3 四国横断自動車道（宿毛～内海）との連携	15

第 1 章 基本構想の策定にあたって

1. 1 基本構想の背景・策定目的

近年、国内の随所で自然災害が頻発化・激甚化している。

とりわけ愛南町においては、発生確率が益々高まっている南海トラフ地震の発生により、最大約 17m の大津波が予想され、唯一の幹線道路である国道 56 号の寸断が懸念されている。特に空港が遠く、鉄道がない愛南町において、災害発生直後からの迅速かつ円滑な支援部隊の進出に必要な緊急輸送ルートを確認するためには、防災機能や地域交流機能を併せ持った休憩施設などと連携した、信頼性の高い高規格道路ネットワークの構築が急務となっている。

このような状況を踏まえ、災害に強いまちづくりの実現を図るため、避難体制強化、道路啓開、救援物資の輸送、一時的な避難生活等に備えた施設の整備を目指し、防災休憩施設の基本構想を策定するものである。

1. 2 基本構想の位置付け

「愛南町防災休憩施設基本構想」（以下「基本構想」という。）は、「愛南町防災休憩施設」の役割を明らかにし、防災休憩施設としての基本的な整備方針を定めるものである。

1. 3 基本構想の策定方法

愛南町では令和 2 年 7 月より、国土交通省、愛媛県、及び本町からなる「愛南町防災休憩施設設計画検討会」を設置し、南海トラフ地震による甚大な被害が想定される本町において災害に強いまちづくりの実現のため、特に津波浸水が懸念される御荘地区へ、災害発生直後、迅速かつ円滑な支援部隊の活動拠点となる、地域交流機能などを併せ持った、防災休憩施設の整備に関する検討を重ねてきた。

本基本構想は、その検討結果に基づき策定したものである。

第2章 愛南町防災休憩施設の役割

2.1 整備の必要性

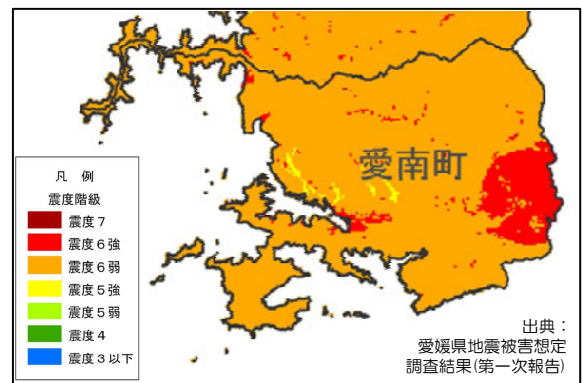
愛南町防災休憩施設の整備の必要性については、大規模災害発生時の「防災機能をもつ施設」の必要性、平常時の「地域交流機能をもつ施設」の必要性の2つが挙げられる。

2.1.1 「防災機能をもつ施設」の必要性

【現状と課題】

(1) 震度

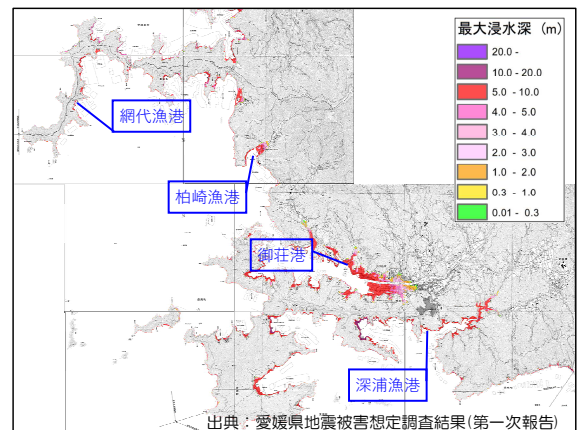
南海トラフ地震を想定した揺れの大きさは、町内のほぼ全域で震度6強～6弱となり、高知県公表資料の宿毛市では2～2.5分の揺れが継続するため、本町も同様と想定される。



(震度分布図)

(2) 津波

御荘地区の市街地をはじめ、沿岸部各所で津波浸水が想定されており、町内の最高津波水位は16.7m、御荘港での最高津波水位は9.0mである。



(津波浸水想定)

■最大津波水位および最短到達時間 出典：愛南町総合防災マップ

	最大津波水位	最短津波到達時間	
		津波高1m	最大津波水位
網代漁港	8.6m	24分	38分
柏崎漁港	9.2m	22分	40分
御荘港	9.0m	28分	46分
深浦漁港	14.7m	17分	37分

※町内での最大津波水位は、脇本の16.7m。

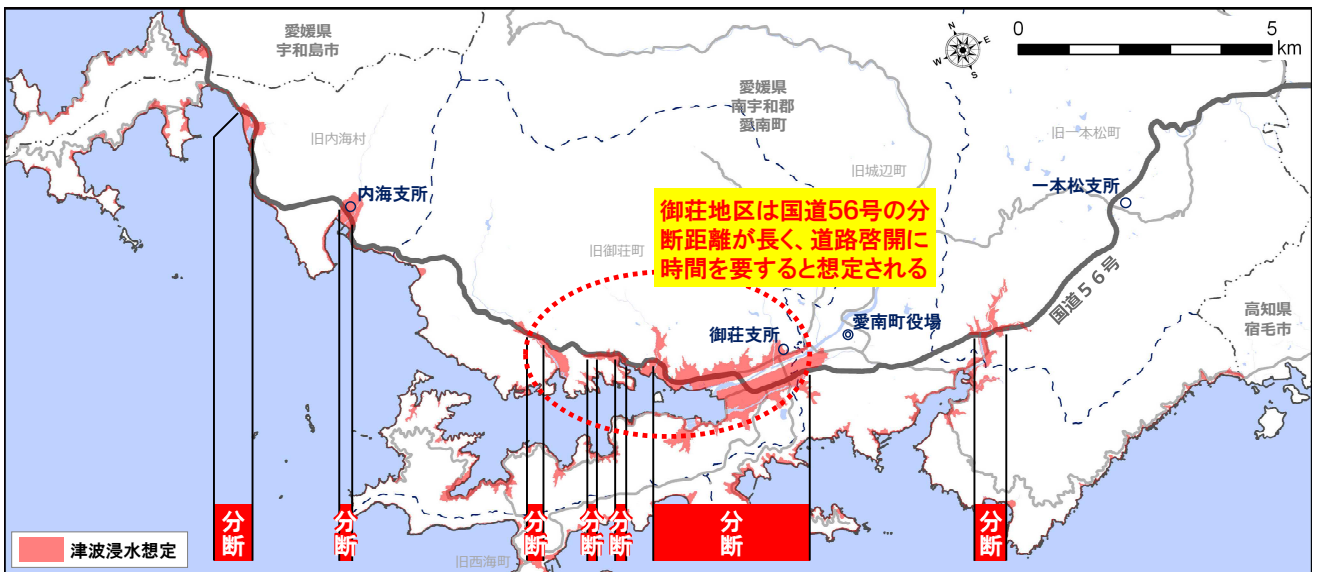
(3) 多くの避難者等の発生

本町は、御荘地区市街地をはじめ沿岸部各所にて津波の浸水が想定されており、大きな人的被害・建物被害が懸念されている。愛媛県の被害想定では、避難者数は最大約11,000人、そのうち約7,200人が避難所での生活を余儀なくされることが想定されている。

(4) 幹線道路である国道 56 号の分断

海岸線に沿って走る国道 56 号は、本町にとって周辺市町と連絡する幹線道路であるとともに、町内の集落を結ぶ重要な路線となっている。しかしながら、南海トラフ地震による津波が発生した際には、国道 56 号が津波による被災を受け、地域や町全体が孤立する可能性を有している。

また、本町は、愛媛県の最南端に位置することから、国道 56 号の道路啓開についても一定の期間を要することが危惧されるため、一時的な避難所での生活等における支援体制の強化が求められている。



(国道 56 号における津波浸水想定)

以上のとおり、本町の中でも御荘地区は、国道 56 号の分断距離が長く、道路啓開に時間を要することが想定されていることから、同地区における防災機能の強化は喫緊の課題である。

このため、令和元年度から着手している御荘地区沿岸津波対策事業などの防災対策を着実に実施するとともに、

- ・津波浸水被害の大きな地区における避難場所の確保
- ・災害時の活動拠点の確保

等を実現するため、津波浸水被害が大きい地域における避難体制の強化、道路啓開、救援物資の輸送、一時的な避難生活等に備えた防災拠点の整備を進めていくことが必要である。

2. 1. 2 「地域交流機能をもつ施設」の必要性

大規模な自然災害の予測は困難で、防災機能向上は愛南町の喫緊の課題である。その一方で本町は、急速な人口減少や少子高齢化、都市圏域から遠隔な地域であることや世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大等に伴う、地域産業の衰退や生活基盤の弱体化といった社会的・経済的問題にも直面している。地域の衰退は本町の魅力を損ないかねず、ひいては、将来の高速道路延伸後に来訪者から素通りされるようになってしまう懸念がある。

このため、新たに整備する防災拠点には、災害時に効果を発揮するだけでなく、平常時にも有効に活用されることが必要である。また、素通りされないまちづくりの観点からも、将来の四国横断自動車道（宿毛～内海）の延伸を念頭に置き、インターチェンジ予定地周辺などの交通利便性の高い場所において地域交流機能を併せ持つことが必要である。

2. 2 愛南町防災休憩施設に求められる役割

愛南町防災休憩施設は、大規模災害発生時の「防災機能をもつ施設」と、平常時の「地域交流機能をもつ施設」としての役割が求められる。

2. 2. 1 大規模災害発生時の役割

(1) 津波浸水被害の大きな地区における避難場所の確保

南海トラフ地震等による津波からの緊急避難場所や、被災者を避難所に収容する間の一時的な避難場所としての役割が求められる。

(2) 災害時の活動拠点の確保

命の道としての四国横断自動車道（宿毛～内海）の早期整備とあわせて、避難・救援体制の強化が必要とされる御荘地区に、四国横断自動車道（宿毛～内海）からアクセス可能な箇所での災害時における防災活動拠点としての役割が求められる。

2. 2. 2 平常時の役割

(1) 平常時にも有効活用される、特産品販路拡大の拠点等

四国横断自動車道（宿毛～内海）の延伸を機会として捉え、本町の強みである農水産物をはじめとする各種地場産品を紹介・販売し、地域内外の方から広く利用される、特産品販路拡大の拠点としての活用などが想定される[※]。

(2) 高速道路利用者に素通りされない、地域交流機能をもつこと

高速道路を利用して訪れる人を引き込み、地域の資源や活動を積極的に発信し、交流拠点としての役割が期待できる[※]。

※平常時の機能については、今後、既存施設との調整を踏まえたより詳細な検討が必要である。

2.3 整備候補地選定の配慮事項

「防災機能」と「地域交流機能」をもつ「防災休憩施設」としての役割を求められていることから、整備候補地選定に向けた配慮事項を次の通り設定する。

【防災】

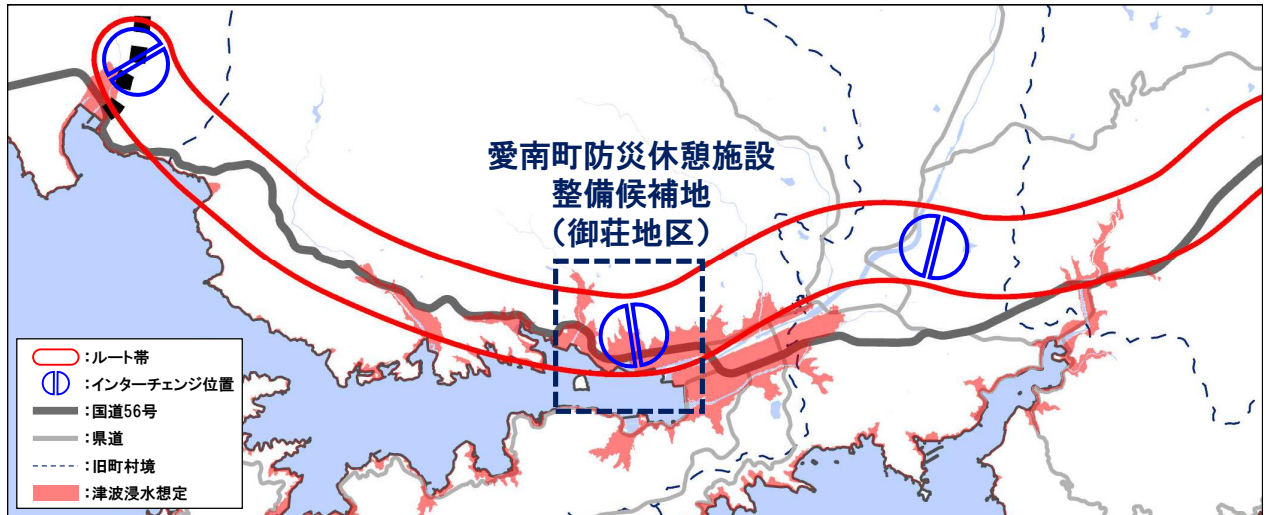
- ・ 高台等の安全な場所で、津波浸水等の被害のおそれがない施設
- ・ 大規模な津波災害が生じた際にも、防災拠点としての機能を発揮できる施設

【地域交流】

- ・ 四国横断自動車道（宿毛～内海）とのアクセス確保により、特産品の販路拡大等による地域振興の拠点としての活用などが想定される。
- ・ 四国横断自動車道（宿毛～内海）とのアクセス確保により、観光交流人口の拠点としての役割が期待できる。

2.4 愛南町防災休憩施設の整備候補地

愛南町防災休憩施設の整備候補地については、御荘地区の四国横断自動車道（宿毛～内海）インターチェンジとの連絡及び松軒山公園との連携が可能な位置とする。



整備候補地と津波浸水想定分布



整備候補地と四国横断自動車道（宿毛～内海）ルート帯

【整備候補地の選定理由】

（御荘地区が整備候補地である理由）

- ・ 御荘地区は津波浸水時の国道 56 号の分断距離が長く、道路啓開に時間を要することが想定されているなど、防災機能の強化が喫緊の課題であるため。

（御荘地区インターチェンジ位置の付近が整備候補地である理由）

- ・ 災害時における地域防災拠点としての機能を確保するには、四国横断自動車道（宿毛～内海）とのアクセス確保が必要不可欠であるため。
- ・ 観光交流人口の増加や特産品の販路拡大等の役割も期待されており、四国横断自動車道（宿毛～内海）とのアクセス確保が必要不可欠であるため。

（松軒山公園の付近が整備候補地である理由）

- ・ 松軒山公園は、上位計画（愛南都市計画区域マスタープラン）において災害時の広域防災拠点としての機能強化を図る施設と位置づけられており、防災休憩施設との連携が期待できるため。
- ・ 施設へのアクセス路として松軒山公園の現行園路を活用することで、防災休憩施設と松軒山公園との連携が期待できるため。

（図示した位置が整備候補地である理由）

- ・ 図示した位置は標高約 30mであり、津波に対する安全性に優れるため。
- ・ 図示した位置は支障家屋がなく、周辺地域への影響が少ないため。

第3章 愛南町防災休憩施設の具体的な整備方針

3.1 施設の具体的な機能

施設の具体的な機能として、災害時に必要となる機能を示す。

なお、平常時の活用が見込めるものについては、想定される平常時の機能を加えて示す。

3.1.1 緊急避難場所（津波一時避難場所）としての機能

御荘地区の津波浸水区域内には大型スーパーやレジャー施設が位置し、季節・時間帯によっては多数の避難者・帰宅困難者が発生する可能性がある。さらに、人口の多い御荘平城地区には、地震・津波時に被災者が一定期間滞在することを想定した指定避難所が少ない。

そのため、新たに整備する防災休憩施設は、避難者の受け入れや帰宅困難者への情報提供を担う、津波一時避難場所としての機能を有するものとする。

災害時の機能

- 情報提供施設
(道路被災状況等の情報提供)
- 指定緊急避難場所
(要配慮者支援)
- 炊き出し所・救護テント設置箇所
- 停電・断水時に利用可能なトイレ
- 非常用電源、防火水槽等

平常時の機能

- 情報提供施設
(道路情報・観光施設等の情報提供)
- 地域交流施設
(バリアフリー化)
- 多目的広場、ドッグラン等
- 24時間対応のトイレ

3. 1. 2 ヘリポートとしての機能

本町におけるヘリの離着陸可能場所は、南レク城辺公園の多目的グラウンドに2機、球技場に1機となっており、当該グラウンドは広域支援部隊の活動拠点にもなっていることから、活動中はヘリの離着陸に支障が出てくる可能性がある。また、津波浸水後の沿岸部は陸路からの救助活動が困難なことが想定され、ヘリでのピックアップによる救助活動が想定される。

そのため、新たに整備する防災休憩施設には、松軒山公園や広域支援部隊と連携した救助活動等を担うヘリポートを整備する。

災害時の機能

■ヘリポート

平常時の機能

■臨時駐車場（GW等の混雑時に開放）

3. 1. 3 進出拠点・活動拠点としての機能

本町において災害時の活動拠点となる南レク城辺公園及び株式会社レクザム愛南工場（災害協力協定締結事業所）並びにあけぼの公園は、南海トラフ地震時の津波浸水想定区域が広がる愛南町中心市街地よりも東側に位置しており、松山・宇和島側（西側）からの救援・救護・救出活動や道路啓開部隊（広域支援部隊）の進出には、津波浸水後のアクセス面で課題が残る。

そのため、新たに整備する防災休憩施設は、災害対策機能や道路啓開・救援・救護車両の集結地点等を担う、西側からの広域支援部隊の最前線基地（進出拠点・活動拠点）としての機能を有するものとする。

災害時の機能

- 災害対策機能（現地対策本部、役場のバックアップオフィス、物資一時保管）
- 道路啓開・救援・救護車両の集結地点
- 復旧活動拠点
- 物資集積・配布スペース
- 近隣防災拠点と連携（災害対応関係車両以外の駐車、防災倉庫と接続）

平常時の機能

- 地域交流施設（物産販売所、多目的会議室等）
- 駐車場（一般客用、従業員用）
- 多目的広場、ドッグラン等

3. 2 必要な施設整備内容

施設の具体的な機能を基本とし、防災休憩施設の整備方針を具現化していくため、次のような施設の整備を図る。

災害時の機能 (防災拠点)	① 緊急避難 場所と しての機能	② ヘリポート としての 機能	③ 進出拠点・ 活動拠点と しての機能	平常時の機能 (休憩施設)	整備内容
■情報提供施設 (道路被災状況等の情報提供)	◎			■情報提供施設 (道路情報・観光施設等の情報提供)	1. 多機能型 休憩施設
■災害対策機能・指定緊急避難場所 (現地対策本部、役場のバックアップオフィス、 物資一時保管、要配慮者支援)	◎		◎	■地域交流施設 (物産販売所・多目的会議室等・バリア フリー化)	
■道路啓開・救援・救護車両の集結地点 ■復旧活動拠点			◎	■駐車場(一般客用、従業員用)	2. 駐車場
■ヘリポート		◎	◎	■臨時駐車場(混雑時に開放)	3. ヘリポート
■物資集積・配布スペース ■炊き出し所・救護テント設置箇所	◎		◎	■多目的広場・ドッグラン	4. 広場
■停電・断水時に利用可能なトイレ	◎			■24時間対応のトイレ	5. トイレ
■近隣防災拠点と連携			◎	-	6. 連絡路
■非常用電源 ■貯水タンク、防火水槽、燃料タンク (地下に建設)	◎		◎		7. その他

3. 2. 1 多機能型休憩施設

- ・多機能型休憩施設の平常時機能としては、道路情報・観光施設等の情報提供機能、物産販売所や多目的会議室等の機能を想定する。必要面積については、想定計画交通量等から算定される必要面積(約1,200㎡以上、トイレ、附属施設等を含む)を確保することで、休憩施設としての機能を満足する。
- ・多機能型休憩施設の災害時機能としては、道路被災状況等の情報提供機能、災害時の現地対策本部や弱者支援等の機能を想定する。必要面積については、平常時の必要面積(約1,200㎡以上)が確保されていることで、災害時の機能を満足する。

3. 2. 2 駐車場

- ・将来の「防災道の駅」登録を見据え、その認定要件を満足する面積を確保する。
- ・災害時の支援活動に必要なスペースとして、2,500㎡以上の駐車場を備える。

3. 2. 3 ヘリポート

- ・災害時には一般避難車両、地元の災害対策・緊急車両、広域支援部隊の災害対応車両、救護関係車両等により駐車場の混雑が予想されることから、防災用ヘリポートは、駐車場（一般客用、従業員用）の面積に含めず、別途確保することが望ましい。
- ・防災用ヘリポートの面積は約 1,200 m²以上（愛媛県の消防防災ヘリ 34m×34m）を想定する。

3. 2. 4 広場

- ・防災休憩施設周辺の津波浸水想定区域から避難する津波一時避難場所として、最大避難者想定人数が一時的に避難する面積（夏場 約 3,500 人 × 1 m²/人 = 約 3,500 m²以上）を確保する。

3. 2. 5 その他（トイレ・連絡路等）

- ・トイレについては、災害時の防災トイレ（仮設・移動式）を考慮できるものとして、平常時を基準に規模を検討している。
- ・連絡路については、松軒山公園の園路を活用する。

3. 3 整備方針

「防災機能」と「地域交流機能」の両面から、当防災休憩施設に必要な施設について次のとおり「整備方針」として示す。

■ **整備箇所：**

- ・ 御荘地区（松軒山公園付近）

■ **面積：**

- ・ 約 11,000 m²

■ **施設：**

- ・ 多機能型休憩施設（約 1,200 m²以上）
- ・ 駐車場（約 2,500 m²以上）
- ・ ヘリポート（約 1,200 m²以上）
- ・ 広場（約 3,500 m²以上）
- ・ トイレ（屋外）
- ・ 連絡路

■ **その他：**

- ・ 四国横断自動車道（宿毛～内海）からアクセス可能な箇所へ整備
- ・ 災害時の進出・活動拠点としての活用、防災道の駅への登録を見据える
- ・ 南レク松軒山公園との連携に重点を置き、アクセス路は園路を活用[※]

※園路の活用は、公園利用者の支障とならないよう、今後、公園管理者との協議が必要

(参考資料) 御荘地区休憩施設イメージパース



第4章 今後の取り組み

4.1 整備の進め方

本基本構想は、主に、防災面における愛南町防災休憩施設の整備の方向性を示すものである。

今後の取り組みにあたっては、平常時の役割や機能等に関する検討など、以下に示す課題が多数あるため、関係機関との調整の上、愛南町防災休憩施設計画検討会において、引き続き検討を行い、必要に応じて基本構想の改定を行う。

課題の解決を行った後、速やかに基本設計～詳細設計に着手し、早期完成を目指す。

4.2 整備における課題

愛南町防災休憩施設整備の課題を整理し、基本構想の熟度を高める。

4.2.1 災害時・平常時機能に関する詳細な施設内容

防災休憩施設の整備にあたり、多機能型休憩施設をはじめとする施設の配置、防災道の駅登録を見据えた平常時機能の規模、災害時に備えた燃料の貯蔵・取扱方法等について、引き続き検討のうえ関係機関との連絡調整を図る。

4.2.2 南レク松軒山公園の防災拠点としての機能強化

南レク松軒山公園は、災害時の広域防災拠点として機能強化を図る施設として位置づけられている。愛南町防災休憩施設は、当該公園と津波浸水区域を通過せずに移動できるよう連絡路を整備し、防災面での連携を図る方針であるため、より具体的な連携内容や機能分担の余地について、引き続き関係機関と調整を図る。

4.2.3 四国横断自動車道（宿毛～内海）との連携

愛南町防災休憩施設が最も有効に機能するには、四国横断自動車道（宿毛～内海）の早期事業化・早期延伸、及び御荘地区へのインターチェンジの配置が不可欠である。当該自動車道は約29kmにわたる計画区間であるため、事業の動きに沿う形で、今後も国・県・関係機関と協議の上、防災休憩施設の整備計画の調整を図る。